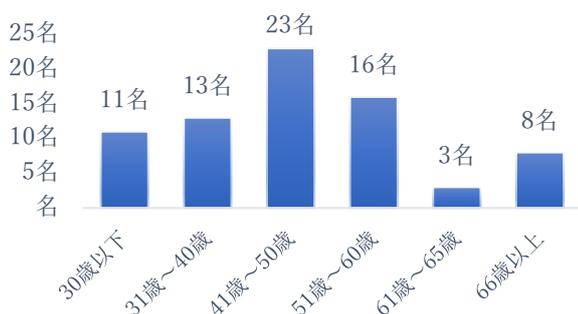


1. 職員状況(令和5年3月31日現在)

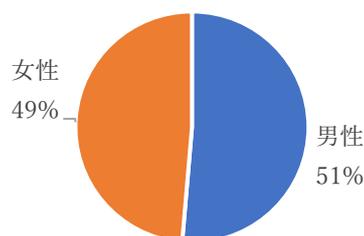
	施設長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護職員	介護職員	介護補助員	事務員	環境整備	宿直員	合計
職員数	1	2	2	1	1	7	45	1	3	5	6	74

※職員数は非常勤(パート職員)を含

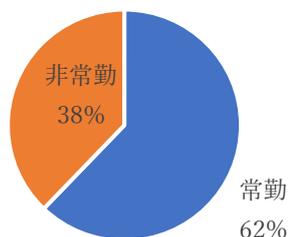
■職員年齢構成



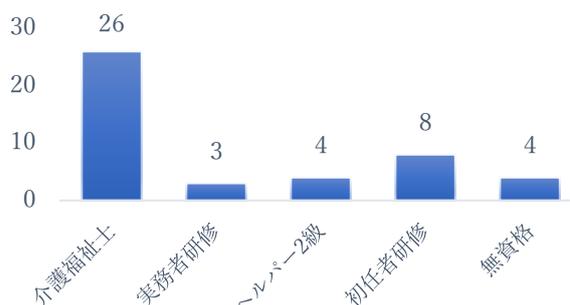
■職員男女割合



■常勤/非常勤割合(介護職員のみ)



■資格者構成(介護職員のみ)



2. 令和4年度法人本部事業目標実績報告

I 中長期的なビジョンを持ち、コンプライアンス遵守及びガバナンスの更なる強化を図るとともに、法人経営の執行管理部門としての役割を果たしていく。

コンプライアンス遵守を図る為、USB 使用の禁止を実施し情報の持ち出しをしないように努めた。また、個人情報の記載されたデータの取り扱い(印刷は必要ない限り控える・必要なくなった際は直ぐにシュレッダーする等)に関しては慎重に実施するよう意識付けを行った。引き続き、情報漏洩をしない・させない仕組みを構築していきます。

II 組織の拡大に備え、事業・組織・財務・人材・地域など、あらゆる面において万全を期す。

新規施設開設に向け、銀行・医療機構との折衝を重ね資金調達をし、ネット媒体・折り込みチラシ等あらゆる方向から人材の確保に努めた。また、横浜市・設計会社・施工会社との度重なる協議・協力の下、6月オープンに向け万全を期した。

III DX化の初年度と位置づけデジタイゼーションを推進し効率的且つ新しい法人価値を見出していく。

DX化初年度として、まず役職者への意識付け(アナログからデジタルへ)からさせていただきました。今後は、稟議書や各届出書等の書類のデジタル化、職員へのメールアドレス配布等でペーパーレス化を図るとともに、ハード面としてWifi環境の整備等引き続きDX化へ向け推進していきます。DX化を実現するには長期的に推進できる予算やリソースを確保し、本部と各拠点との協力体制を構築し、慎重にステップごとに進めていきます。

3. 令和4年度スミール桜ヶ丘拠点事業目標実績報告

I 入居者の生活全般において質の高いサービスを目指し多職種による連携を意識し施設全体で取り組んでいく

令和4年度は、施設全体として「自立支援介護」の考え方を取り入れていく初年度の位置づけとなりました。自立支援介護学会に参画し、「水分ケア」を中心とした4つの基本ケアである「水分」「食事」「排便」「運動」を学び、実践することで、入居者様の日常生活の質を高める取り組みができました。個別に事例を検討していく中で、改善点を探り、計画的に生活機能の向上を目標とした結果、下剤使用率2割の削減と、1割の方の歩行状況改善を達成することができました。このことは状態の現状維持を保つことが目標となりがちなか中、職員のモチベーション向上へとつながりました。施設内でクラスター発生がありましたが、感染対策を徹底し、ご家族の協力のもと、対面会合の機会を4回提供することが出来ました。

■行事／サークル活動

4月	お花見	9月	敬老会	12月	クリスマス
5月	母の日会	10月	運動会	1月	お屠蘇
6月	父の日会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕まつり	11月	文化祭	2月	バレンタインデー
8月	夏祭り	12月	6周年祭	3月	ホワイトデー

他、感染対策が可能な習字サークル(45回/年)や料理レクリエーション(19回/年)を開催しています。

■苦情・相談受付

時期	区分	内容	申立人	対応
5月	ショート	送迎時間の遅れについて	家族	ご家族・担当ケアマネに謝罪をする。
9月	特養	職員の対応について	本人・家族	ご本人の状態を報告し、誤解を招いた点について謝罪する。

II 職員の人材育成を行うことで一人ひとりの資質向上を目指し取り組んでいく

新たに自立支援介護委員会を発足し、根拠のある統一したサービス提供への取り組みを開始しました。施設全体で取り組むために自立支援介護web研修会の内容を動画収録しそれを職員が視聴できる環境を整備しました。併せて、毎月行われる会議で、学習した研修の内容を発表する時間をつくり研修会の周知を図りました。委員会活動では、スキルアップ研修で使用する動画の検討を行い必要な知識の選択をすることができました。スキルアップ研修受講後のチェックテストを継続し知識の定着を図りました。その他、自己学習型の外部研修にオ

ンライン、集合形式とも参加する機会を作ることができました。

■施設内研修(スキルアップ研修)の開催

4月	褥瘡予防及び疾病予防	10月	法令遵守(個人情報)
5月	尿路感染症	11月	認知症ケア(自立支援)
6月	防災訓練	12月	ノロウイルス感染症対策
7月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	1月	感染拡大のため中止
8月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	2月	高齢者虐待/身体拘束廃止
9月	事故発生の防止	3月	事故発生防止

※その他、随時外部機関実施のオンラインセミナーへ個別に参加しています。

Ⅲ 職場環境整備を通して安全に働くことが出来る職場を目指し取り組んでいく

安全衛生の観点から福祉用具の使用について、安全に取り扱うために使用方法の見直しを行いました。福祉用具の正しい使用は、入居者様、職員の負担軽減につながるだけでなく事故防止の役割も持つため取り組んでいます。併せて、基本的に一人で行う作業や業務が多くあるなか、安全に介護をするために協力を要請することができる環境の整備を進めております。

■各種会議

会議名	参加者	実施状況	主な内容
職員会議	全職員	12回/年	施設運営に関する重要事項について情報の共有/新人職員紹介/研修報告/業務上の伝達事項
運営会議	施設長/役職者/専門職	12回/年	施設運営に関する業務進捗・結果等の報告と検討事項の意思決定/問題事項の改善議論
ユニット会議	介護職員/専門職	29回/年	各ユニット単位で入居者様それぞれについて個別のケア内容情報の共有
給食会議	施設長/管理栄養士/委託業者社員	12回/年	給食委託先社員を交えて適切な食事提供に関する協議
ケアカンファレンス(サービス担当者会議)	介護支援専門員/専門職/介護職員	件/年	個々のよりよいサービス提供のために情報の共有や共通理解を図る

■委員会

委員会	実施状況	令和3年度の主な取り組み
入退所判定委員会	12回/年	入所の決定及び退所の検討を行い、待機者の方の入居順位を評価した。
褥瘡対策委員会	12回/年	一人ひとりの評価に基づき、予防・悪化防止・治癒促進に取り組んだ。
感染症対策委員会	9回/年	コロナウイルスの情報収集と対策の実行、及び口腔衛生への取り組みを行う。
リスクマネジメント委員会	12回/年	介護事故の原因・対策など記録の内容共有によりリスクマネジメントに役立てた。
安全衛生委員会	11回/年	職場の定期巡視、産業医による指導強化、また健康優良企業と認定される。
身体拘束適正化委員会	6回/年	身体拘束廃止に関わる個別の検討、及び権利擁護に関する研修開催。

虐待防止検討委員会	4回/年	人権の擁護、虐待の発生を防止するための研修や指針の整備を行う。
自立支援介護委員会	12回/年	研修を基に、入居者の事例収集や施設としての取り組み方法を検討していく。

IV 経営基盤の安定を図ることで持続可能な施設運営を目指し取り組んでいく

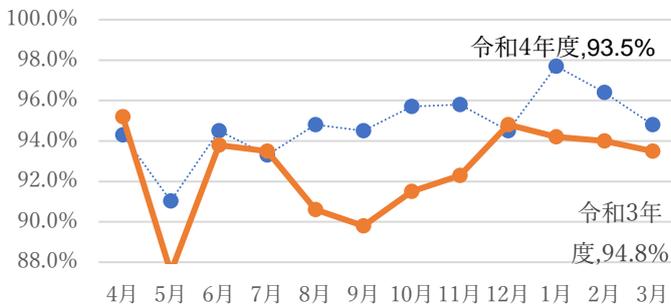
年間目標とした稼働率 95%でしたが、コロナ感染によるクラスターの発生により、入院者が一時的に増えたこと、新規入居者受け入れの遅れなどにより稼働率を確保することができず目標達成することができませんでした。しかし、コロナ感染によるクラスターの発生を経験しクラスター対策機関からは他フロアへの感染の拡大などなく早い収束を迎えたことで高い評価をいただきました。また施設でおこなった感染対策が間違えていなかったと自覚することも出来ました。

施設設備の経年劣化による物品の買い替えを行いました。納品に時間がかかる物品もあり、計画的な施設内の設備管理や日常点検を行う必要があると考えております。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2857名	2713名	2815名	2900名	2818名	2836名
稼働率	95.2%	87.5%	93.8%	93.5%	90.6%	89.8%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2768名	2939名	2921名	2921名	2632名	2938名
稼働率	91.5%	92.3%	94.8%	94.2%	94.0%	93.5%

(参考)稼働率前年度比



	計	
	(R4年度)	(R3年度)
延べ人数	33872名	34589名
稼働率	92.6%	94.8%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	2名	3名	2名	3名	3名	2名
退居	1名	2名	3名	4名	5名	3名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	4名	2名	5名	4名	1名	4名
退居	2名	1名	2名	4名	2名	2名

(参考)退居者数昨対比



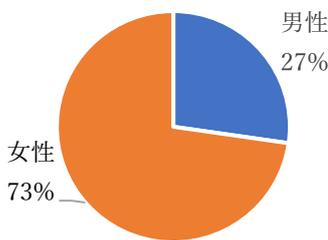
	計	
	(R4年度)	(R3年度)
入居	35名	29名
退居	31名	31名

V 地域に求められる施設のためにつながりを継続して行えるような連携や協力体制の構築に取り組んでいく

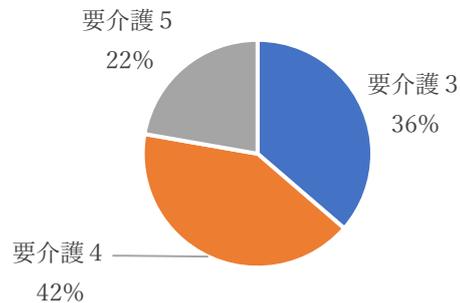
大和市社会福祉協議会「福祉の魅力を伝えるプロジェクト」への介護職員 1 名の派遣を行いました。令和 4 年度は、新しい取り組みであった、依頼を受けた市内の小学校3校への出張福祉教育にも参加することができました。このような地域福祉への参加を通して、福祉の魅力を伝える取り組みにこれからも参加を続けていきます。また、消防訓練について、消防署からの訓練の参加は、令和 4 年度は見送られ、動画視聴による訓練となりました。しかし、消防署員の施設への訪問が再開されており、施設内を見学され施設監査を受けております。

4. 介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘入居者状況(令和 5 年 3 月 31 日現在)

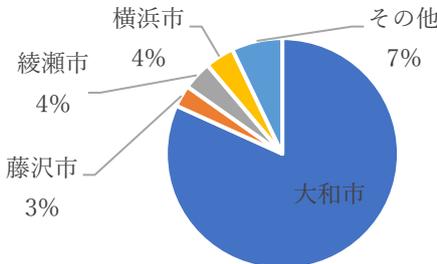
■入居者男女割合



■入居者要介護度割合



■保険者別入居者割合



■入居者男女年齢別状況



5. 令和4年度短期入所生活介護スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 利用者や家族の課題の把握に努め個別性を意識したサービス提供を心掛け快適に過ごしていただけるように努める

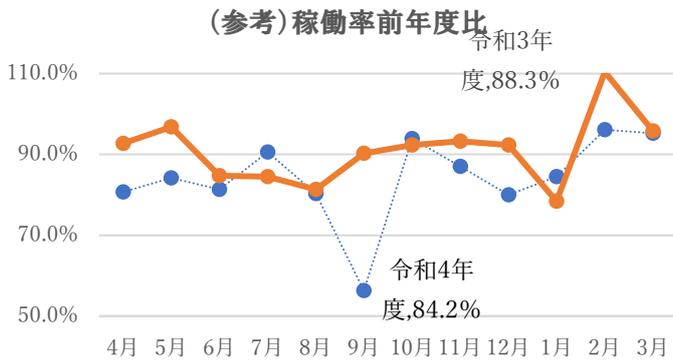
II 感染症対策に努め、稼働率 93%を目指し適時調整を行いながら受け入れを行っていく

III 広報稼働を行うにあたって必要な情報の把握に努め、計画的に周知できるように実施していく

短期入所生活介護では、利用中の方のコロナウイルス感染があったものの、感染対策を徹底して可能な限りサービス提供を継続しました。コロナウイルスの流行期には深刻な稼働率への影響を受けることとなりましたが、利用者が前年比で約 40%増加しており、定期利用者だけでなく、広報活動などによる新規の受け入れに対応した結果と考えております。

■稼働状況

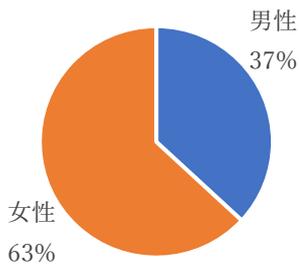
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17名	20名	22名	19名	19名	22名
延べ人数	278名	300名	254名	262名	252名	271名
稼働率	92.7%	96.8%	84.7%	84.5%	81.3%	90.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	18名	20名	18名	14名	22名	18名
延べ人数	286名	280名	286名	243名	309名	297名
稼働率	92.3%	93.3%	92.3%	78.4%	110.4%	95.8%



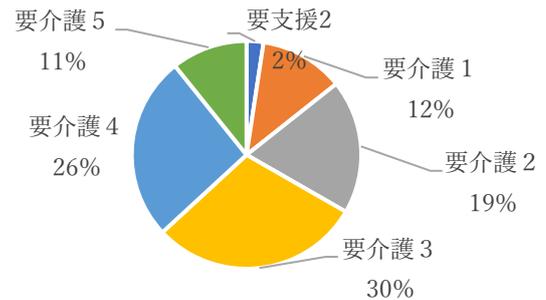
	計	
	(R4年度)	(R3年度)
実人数	76名	53名
延人数	3318名	3072名
稼働率	90.5%	84.2%

6. 短期入所生活介護スミール桜ヶ丘利用者状況(令和4年度)

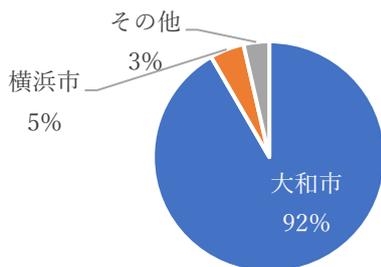
■利用者男女割合



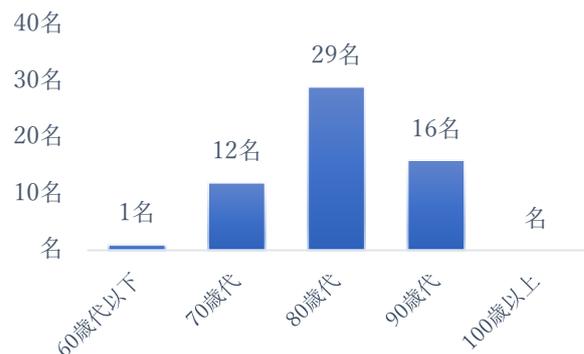
■利用者要介護度割合



■保険者別利用者割合



■利用者年齢別状況



5. 令和4年度スミール荏田拠点事業目標実績報告

I 今計画の目的の一つである職員のキャリアアップ体制を整えるとともに万全な人材確保対策を施す
当初の目的の通り中核となる人材を既存施設から昇格人事を含み選抜しており、適材人材の活躍の場を創出しています。また中途採用活動として面接会に加え、施設としての取り組みを説明する「お仕事説明会」を開催しています。これにより、施設としての取り組みに共感してもらえる人材の確保を行うことで、採用後のミスマッチを防ぎ、目標としているサービス内容を実践できる体制を目指しています。

既存施設にて異動予定者を中心に自立支援介護研修への参加を行ったことで、新施設において根拠に基づいた統一した介護サービスを実践するための準備ができたと考えております。

II 効果的な広報活動を展開しサービス提供を必要とされる入居者の確保を目指す

10月からの入居申込に先駆け、居宅支援事業所などへの継続的な広報活動や、会場を用意して説明会と個別相談会を開催しております。併せて、ホームページやInstagramを活用して、施設開所の告知と入居申込の確保に努めました。これらの活動により、一定の新規申込数の成果を上げることができました。

また施設や病院での面会に制限がある中でも複数の面談担当者で差のない丁寧な施設説明を行い、開所後を見据えたご家族との信頼関係の構築に努めました。しかしながら、同業他社との熾烈な競合の中、入居者確保は苦戦している状況が続いています。

■月間入居申込状況（介護度1・2を含む）

	令和4年10月	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月	令和5年2月	令和5年3月
新規申込数	46件	163件	20件	9件	24件	26件
辞退（除外）	-	-	9件	11件	20件	21件
申込者数計	46	209件	220件	218件	222件	227件

III 事業計画の遂行に向け協力業者の選定や関係機関との円滑な連携を図っていく

厳しい社会情勢により、当初計画をしていた建物建築の工期を延期せざるえない状況となりましたが、施設開所に必要な物品等の購入業者を適切に選定して、施工業者を初めとする各業者協力のもと、事故もなく年度末までに物品の搬入を終えることができました。引き続き関係機関との連携のもと、無事に開所を迎えられるよう努めて参ります。

■主な入札案件

案件	参加	落札業者
厨房機器一式	2社	ホシザキ四国株式会社
初度設備備品整備（電化製品）	5社	日興テクノス株式会社
初度設備備品整備（洗濯・乾燥機）	5社	日興テクノス株式会社
初度設備備品整備（ベッド）	5社	株式会社柴橋商会
初度設備備品整備（特殊浴槽）	5社	株式会社モンズ
初度設備備品整備（医療・介護備品）	5社	小沢作二株式会社

IV 地域の中で選ばれる施設を目指す事業戦略を策定していく

開所後に自立支援介護を中心とした入居者様本位の施設サービス提供の取り組みを実現すべく、協力機関の選定を行っております。

また既存施設との相互関係を密にした 介護ソフトのクラウド化などを構築いたしました。

厳しさが増す介護業界において、生き残りをかけ“選ばれる施設”としての方向性を策定できたと考えております。

■主な協力医療機関

協力病院	医療法人社団 明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
嘱託医	葛が谷つばさクリニック 長田展明院長
精神科	元住吉こころみクリニック
歯科	つきみ野歯科医院
薬局	横浜調剤薬局 荏田店